



“やる気”の根っこ ～「つながり」「できる」「自分から」～

校長 齋藤 博敏

「県内 8 月平均気温初の 30℃ 超え」「県内全国の最高気温を 13 回記録」今年の夏を象徴するような新聞の見出しです。これまで経験したことがない猛暑の夏休みとなりました。そんな異常とも思える夏でしたが、病気で入院したり、大きな事件事故に巻き込まれたりしたといったこともなく、124 名の子どもたちが元気に新学期を迎えることができました。これも保護者、地域の皆様の御協力のお陰です。感謝申し上げます。

さて、7 月の学校だよりで、イギリスに伝わる諺を引用して、子どもたちの“やる気”について綴りました。

この夏読んだ本の中で、人間の“やる気”について、星友啓氏（スタンフォード・オンラインハイスクール校長）が次のように述べていました。

人間のやる気の根っこはたった 3 つ

まずは、私たちのやる気がどのように湧き出てくるのか理解しておきましょう。そのためには「自己決定理論」という心理学理論を押さえておく必要があります。この理論のメインとなる考え方は、以下のように説明できます。

人間のやる気の根本にあるのは、人とのつながり（関係性）、自分が何かできるという感覚（有能感）、それから、自分が決断したことを自分の意志に沿ってやっているという感覚（自律性）である。

これら「心の三大欲求」が満たされると、私たちの心が満たされる。

そして、この自己決定理論は最近になって脳科学的にも確認されてきました。

これはもちろん大人だけでなく子どもたちにとっても同様です。子どもたちの“やる気”を引き出すには、「つながり」「できる」「自分から」が感じられるような環境をつくりだしてあげることが大切です。

「つながり」：友だちと一緒に何かをしたり、友だちのために行動したりすることで感じられる。

「できる」：何かができたり、学べたり、達成できたときに感じられる。

「自分から」：自分が決めたことを自分の考え（意志）でやっていることで感じられる。

「つながり」「できる」「自分から」の「心の三大欲求」については、普段の学校生活においても大切にし、子どもたちに接しています。

2 学期も 1 学期同様、様々な活動・行事が予定されています。主なものでは、9 月：5 年生自然教室・6 年生親善陸上大会、10 月：持久走記録会・たてわり班遠足・学習発表会、絵画作品展、11 月：3・4 年生音楽交歓会、12 月：なかよしフェスティバル等。様々な活動・行事を通して、子どもたちの「心の三大欲求」が満たされるような環境をさらに整え、子どもたちの“やる気”を引き出し、子どもたちの一人一人の成長につなげていきます。

